

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6 年 8 月 2 6 日 更新

事務事業名		合志市歴史資料館運営事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	3	教育の健康				所属部	教育委員会事務局	課長名	牧野 淳一	
	施策	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成				所属課	生涯学習課	担当者名	米村 大	
	施策の柱	46	歴史・伝統文化(文化財を含む)の保護と継承				所属班	生涯学習班	(内線)	1512	
予算科目		会計一般	款10	項5	目7	事業連番10923	根拠法令				
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	平成7年度、合志歴史資料館及び西合志郷土資料館完成。それに伴い事業開始。歴史資料館長を1人配置し歴史資料等の収集・保管・管理及び展示を行なった。文化財保護の啓発および市民の郷土史学習の支援として、ふるさと探訪まちめぐりバスを複数回実施。年に1回合志歴史資料館にて特別展を開催した。子ども歴史科学体験教室については、子どもたちの体験活動支援事業として平成16年度開始。郷土の文化財を周知し、市民に学習の場を提供することを目的として設立。現在残されている貴重な史料は、経年による劣化や破損、散逸の危険性が増えていく。それに伴い、保護して後世に残すべき史料は少しずつ増加すると思われる。また、子ども歴史科学体験教室については、一定の参加者がある。平成26年度より10836合志市郷土・歴史資料館維持管理事業を統合。平成29年度7月より両資料館を合志歴史資料館に統一し、西合志郷土資料館を合志マンガミュージアムにリニューアルした。合志歴史資料館は、平成28年熊本地震以降、被害にあった合志市総合センターウィーブルの復旧工事に合わせ、平成29年度末まで休館。平成30年4月に合志市歴史資料館としてリニューアルオープンした。
【業務の流れ】	展示物、収蔵資料の整理、保管。展示物および収蔵資料の保管。市史編纂資料の収集・作成、体験教室・企画展の開催。
【主な予算費目】	報酬、職員手当等、報償費、旅費、需用費、委託料、使用料及び賃借料
【意見や要望】	資料館への来客数を増加する工夫などの意見が出ている。 給食センター跡地を仮収蔵庫として利用しているが老朽化のため改修もしくは新設の必要がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動)	5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO)	6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
【目的】歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成 【内容】歴史資料館長を1人配置し歴史資料等の収集・保管・管理及び展示を行なった。文化財保護の啓発および市民の郷土史学習の支援として、ふるさと探訪まちめぐりバスを複数回実施。年に1回合志歴史資料館にて特別展を開催した。子ども歴史科学体験教室については、子どもたちの体験活動支援事業として平成16年度開始。郷土の文化財を周知し、市民に学習の場を提供することを目的として設立。現在残されている貴重な史料は、経年による劣化や破損、散逸の危険性が増えていく。それに伴い、保護して後世に残すべき史料は少しずつ増加すると思われる。また、子ども歴史科学体験教室については、一定の参加者がある。平成26年度より10836合志市郷土・歴史資料館維持管理事業を統合。平成29年度7月より両資料館を合志歴史資料館に統一し、西合志郷土資料館を合志マンガミュージアムにリニューアルした。合志歴史資料館は、平成28年熊本地震以降、被害にあった合志市総合センターウィーブルの復旧工事に合わせ、平成29年度末まで休館。平成30年4月に合志市歴史資料館としてリニューアルオープンした。		・ふるさと探訪まちめぐりバス ・子ども歴史・科学体験教室 ・ふるさとカルタの活用 ・歴史資料の収蔵・展示・収集・適正な管理・調査・研究
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 展示資料数	点	会計年度任用職員の昇給による期末勤勉手当の増
→ イ 講座開催回数	回	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民		→ ア 人口
		→ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
郷土史を学ぶことができる		→ ア 来館者数
		→ イ
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
より多くの市民に郷土の歴史について知ってもらうため。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	3年度実績(決算)	4年度実績(決算)	5年度目標(当初予算)	5年度実績(決算)	6年度目標(当初予算)	7年度予定	8年度見込	9年度見込
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	5	93	72	115	62	62	62
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	2,967	3,246	2,548	2,563	3,024	3,024	3,024
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	2,972	3,339	2,620	2,678	3,086	3,086	3,086
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	2,170	2,492	1,593	2,403	1,593	1,593	1,593
人 件 費	正 規 職 員 従 事 人 数	正 規 職 員 従 事 人 数	人	6	6	3	4	3	3	3
		延べ業務時間	時間	555	655	400	660	400	400	400
	(B) 人件費計	(B) 人件費計	千円	2,170	2,492	1,593	2,403	1,593	1,593	1,593
		トータルコスト(A)+(B)	千円	5,142	5,831	4,213	5,081	4,679	4,679	4,679

事務事業名	合志市歴史資料館運営事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 多くの市民に参加していただき、文化財の郷土愛の醸成を図ることができた。
	② 6年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 合志市歴史資料館としてリニューアルオープンし、4年が経過するため、各種体験活動を支援し来館者の増加を図る。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 旧町の歴史しか扱っていなかったが、今後は市としての歴史を市民に対し、わかりやすく展示することで来館者数を向上させる。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 平成29年7月に両資料館を合志歴史資料館に統一したため、統廃合は無い。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在、必要最小限の経費で運営しているため、削減余地はない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在、必要最小限の人件費で運営しているため、削減余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 資料館は無料で誰もが来館し、歴史や文化を学ぶことができる教育施設であるため。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市の文化・歴史に関わる資（史）料を収集・保管・管理することは市の勤めである。

3 評価結果の総括（CHECK）

講座によっては、参加者の人数にばらつきがあるため、より多くの市民に歴史に親しんでもらうために、内容の見直し等も常に考えていく必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐廃止

☐休止

☐目的再設定

☐事業統廃合・連携

☐事業のやり方改善（有効性改善）

☐事業のやり方改善（効率性改善）

☐事業のやり方改善（公平性改善）

☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策